

した組換えポイントが選択される可能性を高め、親株の多様性を保持した状態で 1 週間程度の短時間で新規ウイルスを得ることができる。この新規組換えウイルス作製技術により、従来より短期間で、サル個体における複製能の高い新規 SHIV の作製に成功した。今後この技術を用いて、有用な新規サルエイズモデルを確立できるものと期待される。

## E. 結論

### 1. エイズウイルス感染制御モデルを用いた感染制御に関わる宿主応答の解析

糖鎖変異 SIV 感染が誘導する防御免疫について HIV ワクチン研究への波及効果が期待される結果が得られた。まず多様な変異ウイルスに対する高い感染抑制効果が確認された。次に防御免疫に関し、慢性感染期の感染制御に働く CD8<sup>+</sup>細胞依存性のエフェクター細胞の重要性、IL-15 応答性等の性質が明らかとなった。HIV 感染防御に最も重要と考えられる初期感染期の防御免疫については、感染標的細胞供給、ウイルス感染感受性の調節が今後の課題となった。これらの課題の解明が HIV ワクチン・治療法の開発研究の飛躍的進展に繋がると思われる。

### 2. プライム・ブースト ワクチンの開発

BCG ベクターと増殖型ワクシニアのプライムブースト ワクチンにより、アカゲザルでの SIV<sub>mac</sub> 経粘膜感染を完全に防御できる可能性を示した。実用化には今一步の BCG ベクターのポテンシャル増強が必要であり、BCG の変異株を用いた取り組みが期待される。

HIV-1 特異的細胞性と液性の両免疫を効率よく誘導する免疫法として m8Δenv prime/SeVenv boost 法を確立した。さらに、hCD40Lm を priming 時に発現させることによって、両免疫を増強できることを見いだした。

### 3. アジュバント・細胞性免疫誘導法の研究

Ag85B を発現するエイズ弱毒生ウイルスの構築に成功し、カニクイザルを用いた評価で防御免疫効果を明らかにした。

現在蔓延している HIV-1 の主体が R5-type であることを鑑みるに、粘膜自然免疫を担う、樹状細胞群ならびに NKT 細胞群こそが HIV の主たる標的であり、これら細胞群における感染を制御することが、HIV-1 制圧の鍵を握る。

HIV-1 gag-VLP および rBV-gag はマウス樹状細胞を活性化させ多彩な自然免疫および適応免疫応答を発揮し、HIV-1 感染制御がマウスレベルでもされ、新規 HIV-1 樹状細胞ワクチンの開発に対し有用な結果が得られた。

### 4. 広域中和抗体

中和抗体に焦点を当てた本研究は、HIV-1 に対する液性免疫に対する理解を深めると同時に、抗原の構造と機能を理解するために貢献が期待できる。液性免疫誘導型ワクチンの免疫源をデザインするための重要な情報を提供すると思われる。

ここで得られた成果は今後の抗 HIV 抗体・エイズワクチン療法の研究において、重要な知見となると思われる。

HIV-1 様粒子からディタージェントにより宿主膜蛋白、膜脂質を除いた Core-Env 抗原は、マウスにおいて広域中和モノクローナル抗体を誘導し、抗原として有効な可能性がある。

ワクチンは健康な人に接種することになるため、安全性確保および効果の担保が絶対条件として考えられるため、本来ヒトはマウスなどとは異なり遺伝的に多様であるため、今後臨床開発へと発展させることを前提に、本邦での霊長類を用いた大規模な安全性試験の実施を協力を推進する研究組織の拡充はかり、HIV 粘膜ワクチン開発が本邦で推進されることを期待する。

### 5. ワクチン評価モデルの作成

高病原性 X4 指向性 SHIV-KS661 の V3 領域に

5 箇所のアミノ酸変異を導入することによって、共受容体指向性を R5 型に変えることに成功した。この新規に作製した R5 型 SHIV-MK1 の個体内での複製能は必ずしも高くなかったが、アカゲザル個体で継代することにより、アカゲザルに安定して感染し、複製する R5 指向性 SHIV-MK38 株を得た。SHIV-MK38 は、中和抵抗性(Tier 2、3 相当)となったことから、今後エイズの病態解明やワクチン評価のための攻撃接種ウイルスとしての活用が期待される。また、相同組換えを利用して親株の持つ遺伝的多様性を再構築できる簡便で有用な新規組換えウイルス作製技術を確立し、アカゲザルで良く増殖する CCR5 指向性クレード C 型臨床分離 HIV-1 株 Env を持つ新規 SHIV を短期間で作製することができた。

## F. 健康危険情報

特に該当する情報はなかった。

## G. 研究報告

### 論文発表

研究成果の刊行に関する一覧表を参照のこと

研究成果の刊行に関する一覧表を参照のこと

### 学会発表

1. Kazuyasu Mori, Hirotaka Sato, Yohei Saito, Nursarat Ahmed, and Chie Sugimoto. Potent protective response against highly diverse and pathogenic SIV elicited with deglycosylated SIV vaccine wanes due to strict containment of SIV infection. 29th Annual Symposium on Nonhuman Primate Models for AIDS. October 2011, Seattle, USA.
2. 低病原性糖鎖修飾変異 SIV の初期感染、生ワクチン感作ザルに誘導される宿主遺伝子発現の解析 森 一泰、佐藤洋隆、Nursarat Ahmed、武田哲、宇田昌彦、永井美

之、日本エイズ学会、2011 年、東京

3. 高い多様性と高病原性を示す SIV に対する感染防御に有効な防御免疫 Nursarat Ahmed、齋藤陽平、渡辺哲、山本直樹、永井美之、森 一泰 日本エイズ学会、2011 年、東京
4. Kazuyasu Mori<sup>1</sup>, Satoru Watanabe<sup>1</sup>, Yohei Saito<sup>1</sup>, Hirotaka Sato<sup>1</sup>, Chie Sugimoto. A critical role of NK cells and effector CD8+ T cells for protective host response against heterologous SIV infection in rhesus macaques vaccinated with deglycosylated live attenuated SIV. 28th annual symposium on nonhuman primate models for AIDS. October, 2010, New Orleans, USA.
5. 糖鎖欠失変異による SIV の低病原性化のメカニズム 佐藤洋隆、杉本智恵、渡辺哲、齋藤陽平、永井美之、森 一泰 日本ウイルス学会、2010 年、徳島
6. ウイルススパイクの糖鎖修飾の減少は SIV の細胞・組織トロピズムを変化させ生ワクチンとして防御免疫を誘導する 森 一泰、杉本智恵、横田恭子、鈴木康夫、山本直樹、永井美之、日本エイズ学会、2010 年、東京
7. 糖鎖変異生ワクチンが誘導する防御免疫における CD8+細胞の役割 齋藤陽平、渡辺哲、杉本智恵、佐藤洋隆、山本直樹、永井美之、森 一泰 日本エイズ学会、2010 年、東京
8. K. Mori, C. Sugimoto, Teiichiro Shiino, Akinori Kimura, Masaaki Miyazawa, Vanessa Hirsch, Naoki Yamamoto, Yoshiyuki Nagai. Long-term control of heterologous challenge infection in rhesus macaques vaccinated with live attenuated deglycosylated SIV by CD8+ cells mediated response. 27th annual symposium on nonhuman primate models for AIDS. October, 2009, Boston, USA.

9. 糖鎖修飾による組織・細胞指向性はエイズウイルスの病原性・感染防御免疫誘導を決定する 森 一泰、杉本智恵、横田恭子、鈴木康夫、山本直樹、永井美之 日本ウイルス学会、2009年、東京
10. Heterologous SIV 感染モデルによる多様性ウイルス感染を防御する宿主応答の解析 2 森 一泰、杉本智恵、渡辺哲、佐藤洋隆、成瀬妙子、椎野禎一郎、宮澤正顯、木村彰方、山本直樹、永井美之、日本エイズ学会、2009年、名古屋
11. 長期感染における糖鎖欠失変異 SIV の病原性 森 一泰、杉本智恵、佐藤洋隆、渡辺哲、山本直樹、永井美之、日本エイズ学会、2009年、名古屋
12. Kanekiyo M, Ami Y, Matsuo K, Someya K, Yamamoto N, and Honda M. A low dose immunization of codon-optimized recombinant BCG confers long-lasting SIV-specific memory T cells after recombinant vaccinia boost in macaques. AIDS Vaccine 2011, September 12-15, 2011, Bangkok, Thailand
13. Okamura T, Shimizu Y, Matsuo K, and Yasutomi Y. Adjuvant molecule Ag85B cDNA insertion into live attenuated simian-human immunodeficiency virus enhances the SHIV-specific immune responses in cynomolgus monkeys. IUMS 2011, September 11-15, 2011, Sapporo, Japan
14. 張 險峰、五十嵐樹彦、松尾和浩、堀端重男、横溝香里、三浦智行、大橋 貴、山本直樹、志田壽利. 高病原性 SIV に対する組換え BCG と弱毒ワクシニア(m8Δ)エイズワクチンの防御効果. 第25回日本エイズ学会学術集会・総会、2011年、東京
15. Matsubara A, Watanabe K, Kawano M, Mizuno S, Tsujimura Y, Inada H, Fukumura M, Nosaka T, Matsuo K, Yasutomi Y. Intranasal immunization with replication-deficient recombinant human parainfluenza type 2 virus-Ag85B showed protective effects against *Mycobacterium tuberculosis* infection., The Second Global TB Vaccine Forum, 2010, Tallin, Estonia
16. H. Shida: Immunogenicity of LC16m8Δ Vaccinia Virus/Sendai Virus Vector Expressing the gp160 of HIV-1 and Effect of CD40Lm AIDS VACCINE 2011 September 2011 Bangkok Thailand
17. Tomoyoshi Sobue, Shun-Ichi Makino, Xianfeng Zhang, Takashi Ohashi, Kazunori Kato, Tatsuo Shioda, Nakoto Inoue, Mamoru Hasegawa, Hisatoshi Shida: Immunogenicity of Lc16M8Δ Vaccinia Prime/Sendai Virus Vector Boost Targeting the Envelope Glycoprotein of HIV-1 and Contribution of CD40Lm. September 2011, XV International Congress of Virology. Sapporo Convention Center, Sapporo, Japan.
18. Xianfeng Zhang, Tomoyoshi Sobue, Hisatoshi Shida: Enhancement of CD40Lm on Vaccine Elicited Anti-HIV-1 Immunity. July 2011, 6<sup>th</sup> IAS Conference on HIV Pathogenesis, Treatment and Prevention. Rome, Italy
19. 祖父江友芳、大橋貴、志田壽利. 抗Env 免疫誘導に対するCD40Lm の効果. 第24回日本エイズ学会学術総会 2010年、グランドプリンスホテル東京
20. Urano E., Miyauchi K., Ichikawa R., Takizawa M., and Komano J. HIV-1 protease-activable CASP3 as a therapeutic gene against HIV-1 infection. IUMS 2011 The Unlimited World of Microbes XV International Congress of Virology. Sep 13, 2011, Sapporo, Japan

- pan.
21. Watanabe T., Urano E., Miyauchi, K., Ichikawa R., Hamatake M., Sato K., Ebina H., Kuranagi Y., and Komano J. The hematopoietic cell-specific Rho GTPase inhibitor ARHG DIB/D4GDI limits HIV-1 replication. IUMS 2011 The Unlimited World of Microbes XV International Congress of Virology. Sep 13, 2011, Sapporo, Japan.
  22. Komano J., Urano E., Yanagita H., Morikawa Y., and Hoshino T. Novel HIV-1 inhibitors targeting the last viral enzymatic activity and the structural protein. The 24<sup>th</sup> Joint meeting of the AIDS panels, HIV Resistance Impact in Asia. Dec 8-10, 2010, Singapore.
  23. Komano J. Cytokine signatures of transformed B cells with distinct EBV latency. The 7th Taiwan-Japan Symposium on HIV/AIDS, Center for Disease Control Department of Health. Oct 6, 2010, National Taiwan University, College of Medicine, Taiwan.
  24. Komano J. Study on neutralizing antibodies against two highly variable viruses. The US-Japan Cooperative Medical Science Program 23rd Joint Meeting of AIDS Panel. Sept 10, 2010, Awaji Island, Hyogo, Japan.
  25. Urano E., Miyauchi K., Takizawa M., Ichikawa R., and Komano J. Therapeutic potential of CASP3 engineered to be activated by HIV-1 protease. 第 34 回日本分子生物学会年会、2011 年、横浜.
  26. 齊藤達哉、駒野淳、斎藤愛記、山岡昇司、山本直樹. 好中球は Neutrophil extracellular traps により Human immunodeficiency virus-1 を排除する. 第 34 回日本分子生物学会年会、2011 年、横浜.
  27. Komano J., Miyauchi K., Urano E., Okada Y., Kui C., and Hang Y. Activation of TR L3-mediated innate immune response by retroviral infection in human cells. 第 34 回日本分子生物学会年会、2011 年、横浜.
  28. 柳田浩志、横田瑞穂、尾瀨将一、浦野恵美子、市川玲子、村上努、駒野淳、星野忠次. HIV-1 逆転写酵素 RNase H 活性阻害剤の開発. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、2011 年、東京.
  29. 招待講演 Komano J. Cytokine signatures of transformed B cells with distinct EBV latencies as a potential diagnostic tool for B cell lymphoma. シンポジウム「ガン・免疫・代謝研究を加速する Multiplex Assay とその応用」、2011 年、東京.
  30. 橋本知恵、田中智博、浦野恵美子、尾崎太郎、新井啓之、鳴海哲夫、野村渉、Maddali K., Pommier Y., 山本直樹、駒野淳、玉村啓和. HIV-1 遺伝子産物由来のインテグラーゼ阻害剤の創出. 第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、2010 年、東京.
  31. 今留謙一、矢島美沙子、川野布由子、市川紗弓、清水則夫、中村浩幸、松田剛、駒野淳、山本直樹、藤原製悦. EB ウイルス関連血球貪食症候群モデルマウスの作製と解析. 第 58 回日本ウイルス学会学術集会、2010 年、徳島.
  32. 星野忠次、柳田浩志、松元輝礁、尾瀨将一、高江州善寿、浦野恵美子、市川玲子、村上努、駒野淳. 新規 HIV-1 逆転写酵素 RNase H 活性阻害剤の開発. 第 58 回日本ウイルス学会学術集会、2010 年、徳島.
  33. 浦野恵美子、倉持紀子、市川玲子、宮内浩典、供田浩、武部豊、駒野淳、森川裕子. HIV-1 Gag を標的とする低分子化合物 BMMP によるウイルスエンター阻害機構. 第 58

- 回日本ウイルス学会学術集会、2010年、徳島。
34. 招待講演 駒野淳. Development of Rnase H inhibitor associated with HIV-1 RT. 鹿児島大学医歯学総合研究科 医学研究講義特別講演会、2010年、鹿児島。
  35. 星野忠次、柳田浩志、松元輝礁、尾瀨将一、浦野恵美子、村上努、駒野淳. 抗HIV薬RnaseH活性阻害剤の開発. 第8回ナノ学会大会、2010年、岡崎市。
  36. 駒野 淳. オーミクス解析手法が次世代エイズ治療・予防法開発に与えるインパクト. シンポジウム「これからのHIV研究の進むべき方向」 第23回日本エイズ学会、2009年、名古屋。
  37. 村上努、呉鴻規、富田香織、伯川冬美、駒野淳、千葉丈、山本直樹. Rab蛋白質とそのエフェクター蛋白質のHIV-1粒子形成における役割(Rab7を中心に). 第23回日本エイズ学会学術集会、2009年、名古屋。
  38. 浦野恵美子、倉持紀子、供田洋、武部豊、駒野淳、森川裕子. 酵母の膜結合Gag-Gag反応系で同定されたHIV-1 Gagアセンブリー阻害剤. 第23回日本エイズ学会学術集会、2009年、名古屋。
  39. 招待講演 駒野淳. ゲノムワイドなエイズウイルス複製制御因子の探索. 厚生労働科学研究費(エイズ対策研究推進事業)研究成果等普及啓発事業(国民向け)「HAART時代の長期予後を脅かす治療抵抗性エイズリンパ腫に対する多面的治療戦略に関する研究」岡田班研究成果発表会『エイズとエイズリンパ腫治療の最前線』、2009年、東京
  40. 高橋秀宗、飛梅実、金子恵子、巽正志、佐多徹太郎. HIV-1 広域中和抗体誘導抗原の開発. 第 58 回日本ウイルス学会総会 2010. 1 1.
  41. 高橋秀宗、飛梅実、金子恵子、巽正志、佐多徹太郎. HIV-1 広域中和抗体誘導抗原の開発. 第 14 回ワクチン学会総会 2010.12.
  42. Takahashi, H., Tobiume, M., Sata, T. Immunization with virus-like particles of human immunodeficiency virus type 1 produces neutralizing antibodies against subtype B pseudo viruses. AIDS vaccine 2010 conference. Atlanta, USA, September, 2010
  43. 松浦薫、三隅将吾、松本浩和、甲斐光、高橋義博、増山光明、杉本幸彦、高宗暢暁、庄司省三 Tetragalloyl Lysine dendrimer (TGDK)を用いた新規 M 細胞標的粘膜ワクチン戦略 第 82 回日本生化学会大会 プログラム p396 神戸
  44. 甲斐光、三隅将吾、松本浩和、松浦薫、高橋義博、増山光明、杉本幸彦、高宗暢暁、庄司省三 Tetragalloyl Lysine dendrimer (TGDK)の M 細胞標的能の検討とワクチンへの応用. 第 57 回日本ウイルス学会学術集会 プログラム抄録集 p218 東京
  45. 三隅将吾、高宗暢暁、杉本幸彦、庄司省三、霊長類 M 細胞標的分子を用いた HIV 経口ワクチンの開発. 第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム 講演要旨集 p37 福岡
  46. 野崎清輝、三隅将吾、松本浩和、甲斐光、松浦薫、高橋義博、増山光明、杉本幸彦、高宗暢暁、庄司省三. M 細胞標的分子 Tetragalloyl Lysine dendrimer (TGDK)を用いた HIV 粘膜ワクチン開発. 第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会抄録集. P493 名古屋
  47. 三隅 将吾、野崎清輝、松本 浩和、甲斐光、松浦 薫、高橋 義博、増山 光明、杉本 幸彦、高宗 暢暁、庄司 省三\*HIV に対する粘膜免疫応答を誘導するワクチンの開発 Tetragalloyl-D-Lysine Dendrimer (TG

- DK)を用いた粘膜ワクチン開発,平成22年度  
日本生化学会九州支部例会抄録集 p.56  
2010/05/22-2010/05/23 鹿児島
48. 三隅将吾, 大坪 靖治, 野崎 清輝, 八城 勢造, 高橋 義博, 増山 光明, 宗岡 篤信, 洲加本 孝幸, 福崎 好一郎, 杉本 幸彦, 高宗 暢暁, 庄司 省三, HIV 感染防止粘膜ワクチンの創製-Absolute rejection vaccine を目指して,第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会抄録集 p.294(86) 2010/11/24-2010/11/26 東京
49. 工藤康史<sup>1</sup>、城戸啓嗣<sup>1</sup>、大坪靖治<sup>2</sup>、高橋義博<sup>2</sup>、増山光明<sup>2</sup>、宗岡篤信<sup>2</sup>、杉本幸彦<sup>1</sup>、高宗暢暁<sup>1</sup>、庄司省三<sup>1,3</sup>、三隅将吾<sup>1</sup>、中国産アカゲザルへの馴化を目的とした SIV の増殖適応変異の解析,第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会抄録集 p.437(229) 2010/11/24-2010/11/26 東京
50. 八城勢造、野崎清輝、三隅将吾、高橋義博、増山光明、杉本幸彦、高宗暢暁、庄司省三、HIV defense vaccine により誘導される抗 gp140 抗体の交叉免疫誘導,第 58 回日本ウイルス学会学術集会抄録集 p.70, 2010/11/7-2010/11/9 徳島
51. 工藤康史、城戸啓嗣、大坪靖治、杉本幸彦、高宗暢暁、庄司省三、三隅将吾,中国産アカゲザルへの馴化を目的とした SIV の増殖適応変異に関する研究,第 27 回日本薬学会九州支部大会抄録集 p.109,2010/12/11-2010/12/12 長崎
52. 甲斐光、高宗暢暁、杉本幸彦、庄司省三、三隅将吾, Tetragalloyl-D-Lysine Dendrimer (TGDK)の M 細胞標的能の検討,第 27 回日本薬学会九州支部大会抄録集 p.108,2010/12/11-2010/12/12 長崎
53. 松浦薫、高宗暢暁、杉本幸彦、庄司省三、三隅将吾,M細胞標的 HIV 粘膜ワクチンの開発のための基礎研究,第 27 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集 p.110 2010/12/11-2010/12/12 長崎
54. 八城勢造、三隅将吾、高橋義博、大坪靖治、増山光明、杉本幸彦、高宗暢暁、庄司省三、第 10 回 次世代を狙う若手ファーマバイオフォーラム PBF2011 講演要旨集 p. 34 2011/10/8-9 仙台
55. 八城勢造、三隅将吾、高橋義博、大坪靖治、増山光明、杉本幸彦、高宗暢暁、庄司省三、交叉免疫抗原を介した抗 CCR5 抗体と抗 Env 抗体の誘導,日本エイズ学会誌 Vol. 13, No. 4, p352, 2011,2011/11/30-12/2 東京
56. 八城勢造、三隅将吾、高橋義博、大坪靖治、増山光明、杉本幸彦、高宗暢暁、庄司省三、HIV 感染抵抗者から学ぶ HIV ワクチン創製、平成 23 年度日本薬学会九州支部大会講演要旨集 p.46 2011/12/10-11 福岡
57. Tamamura H. Development of an artificial antigen inducing neutralizing antibodies specific to gp41 trimer. Satellite Symposium at Mt. Aso. September 30, 2009
58. 玉村啓和. ペプチドを基盤としたケミカルバイオロジーと抗 HIV 剤の創製. 九州ペプチドフォーラム. 北九州, 2009 年 1 月 22-23 日.
59. 玉村啓和. ペプチドとくすり. 第 4 回四大学連合文化講演会. 東京, 2009 年 10 月 9 日.
60. 玉村啓和, 野村 渉, 鳴海哲夫, 田中智博, 駒野 淳, 山本直樹. ペプチドミメティクを基盤とした阻害剤と新規概念によるワクチン. 第 82 回日本生化学会大会 シンポジウム. 神戸, 2009 年 10 月 21 日.
61. 鳴海 哲夫. ペンシルバニア大学留学体験記~化学選択的反応によるペプチド合成~. 若手ペプチド夏の研究会. 東京, 2009 年 8 月 2-4 日.

62. Nomura W, Narumi T, Ohashi N, Tanaka T and Tamamura H. Protein Ligand Biosensors and Fluorescence-based Ligand Screening. Barcelona BioMed Conferences: Fifth Peptide Engineering Meeting. Barcelona, Spain, Oct 26-28, 2009
63. Narumi T, Hayashi R, Tomita K, Kobayashi K, Tanahara N, Ohno H, Naito T, Kodama E, Matsuoka M, Nomura W, Tamamura H, Oishi S, Fujii N. Diastereoselective synthesis of (Z)-fluoroalkene dipeptide isosteres and their incorporation into the selective CXCR4 antagonists. The 3rd Asia-Pacific International Peptide Symposium. Jeju Island, Korea, Nov8-11, 2009
64. Tanaka T, Nomura W, Narumi T, Tamamura H. Chemical biology approach utilizing novel bivalent ligands for GPCR CXCR4 leads to the elucidation of a dimeric structure. The 3rd Asia-Pacific International Peptide Symposium. Jeju Island, Korea, Nov8-11, 2009
65. Nomura W, Serizawa Y, Ohashi N, Okuda Y, Narumi T, Yoshida K, Furuta T, Tamamura H. Study of PKC-dependent cellular signaling in a spatial- and temporal-specific manner by photoactivatable synthetic compounds. The American Society for Cell Biology 49th Annual Meeting. San Diego, USA, Dec5-9, 2009
66. 大橋南美, 野村 渉, 加藤 舞, 堤 浩, 糸谷恭子, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 吉田清嗣, Nancy E. Lewin, Peter M. Blumberg, 玉村啓和. PKC C1b ドメインの合成およびその蛍光性誘導体を用いた新規スクリーニング法の開発. 日本薬学会第 129 年会. 京都, 2009 年 3 月 26 - 28 日.
67. 野村 渉, 芹澤雄樹, 大橋南美, Nancy E. Lewin, 堤 浩, 吉田清嗣, Peter M. Blumberg, 古田寿昭, 玉村啓和. ケージド DAG-ラクトンによるプロテインキナーゼ C の活性化制御. 日本薬学会第 129 年会. 京都, 2009 年 3 月 26 - 28 日.
68. 野村 渉, 増田朱美, 加藤 舞, 大庭賢二, Carlos F. Barbas, III, 山本直樹, 玉村啓和. 配列特異的 DNA 組換え酵素における DNA 結合親和性が及ぼす組換え反応効率への影響. 日本薬学会第 129 年会. 京都, 2009 年 3 月 26 - 28 日.
69. 橋本知恵, 堤 浩, 田中智博, 野村 渉, 大庭賢二, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 コレセプター CXCR4 を基にした人工設計型抗原分子の開発. 日本薬学会第 129 年会. 京都, 2009 年 3 月 26 - 28 日.
70. 田中智博, 野村 渉, 田部泰章, 堤 浩, 糸谷恭子, 大庭賢二, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. 蛍光性 CXCR4 特異的リガンドの開発: スクリーニング及びイメージングへの展開. 日本薬学会第 129 年会. 京都, 2009 年 3 月 26 - 28 日.
71. 奥田善章, 堤 浩, 野村 渉, 大橋南美, 芹澤雄樹, 玉村啓和. センシングバイオロジーを志向した蛍光性 DAG-lactone 誘導体の合成と機能評価. 日本化学会第 89 春季年会. 東京, 2009 年 3 月 28 日.
72. 堤 浩, 阿部清一郎, 蓑 友明, 野村 渉, 玉村啓和. センシングバイオロジーを志向した新規タンパク質イメージングツールの開発. 日本化学会第 89 春季年会. 東京, 2009 年 3 月 29 日.
73. 野村 渉, 芹澤雄樹, 大橋南美, Nancy E. Lewin, 堤 浩, 吉田清嗣, Peter M. Blumberg, 古田寿昭, 玉村啓和. 光機能性リガンドを用いたプロテインキナーゼ C の活性化

- 制御. 日本ケミカルバイオロジー学会 第4回年会. 神戸, 2009年5月18-19日.
74. 中西勇太, 堤 浩・駒野 淳, 田中智博, 中原 徹, 大橋南美, 野村 渉, 山本直樹, 玉村啓和. フォワードケミカルジェネティクスを応用した HIV インテグラーゼ阻害剤. 日本ケミカルバイオロジー学会 第4回年会. 神戸, 2009年5月18-19日.
75. 堤 浩, 阿部清一郎, 養 友明, 野村 渉, 玉村啓和. 新規タグプローブシステムの開発とタンパク質蛍光イメージングへの応用. 日本ケミカルバイオロジー学会 第4回年会. 神戸, 2009年5月18-19日.
76. 大橋南美, 奥田善章, 野村 渉, 堤 浩, 芹澤雄樹, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 吉田清嗣, Nancy E. Lewin, Peter M. Blumberg, 玉村啓和. 蛍光性 diacylglycerol-lactone 誘導体の合成と機能評価. 日本ケミカルバイオロジー学会 第4回年会. 神戸, 2009年5月18-19日.
77. 野村 渉, 増田朱美, 奥田 毅, Carlos F. Barbas, III, 玉村啓和. 遺伝子機能制御に向けたプログラム可能な DNA メチル化酵素の創製. エピジェネティクス研究会年会. 東京, 2009年5月22-23日.
78. 田中智博, 野村 渉, 田部泰明, 鳴海哲夫, 糸谷恭子, 大庭賢二, 山本直樹, 玉村啓和. 蛍光性 CXCR4 プローブを用いた CXCR4 リガンドスクリーニング. 第120回日本薬理学会関東支部. 東京, 2009年7月11日.
79. 大橋南美, 野村 渉, 鳴海哲夫, 奥田善章, 堤 浩, 田中智博, 吉田清嗣, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 玉村啓和. 蛍光標識した PKC C1B ドメインの化学合成とその応用. 第120回日本薬理学会関東支部. 東京, 2009年7月11日.
80. 橋本知恵, 堤 浩, 田中智博, 野村 渉, 大庭賢二, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 コレセプター CXCR4 を基にした人工設計型抗原分子の開発. 第120回薬理学会関東支部. 東京, 2009年7月11日.
81. 野村 渉, 増田朱美, 加藤 舞, 大庭賢二, Carlos F. Barbas, III, 山本直樹, 玉村啓和. 配列特異的 DNA 組換え酵素における DNA 結合親和性が及ぼす組換え反応効率への影響. 第120回薬理学会関東支部. 東京, 2009年7月11日.
82. 堤 浩, 玉村啓和. 蛍光 OFF/ON 機能を有するペプチドツールを用いたタンパク質の蛍光イメージング. 第24回生体機能関連化学シンポジウム, 第12回バイオテクノロジー部会シンポジウム. 福岡, 2009年9月13-15日.
83. 野村 渉, 芹澤雄樹, 大橋南美, Nancy E. Lewin, 奥田善章, 鳴海哲夫, 吉田清嗣, Peter M. Blumberg, 古田寿昭, 玉村啓和. キナーゼの細胞内局在機構解明のためのツールとしてのケージド化合物. 第24回生体機能関連化学シンポジウム, 第12回バイオテクノロジー部会シンポジウム. 福岡, 2009年9月13-15日.
84. Ochiai C, Yoshimura K, Yamada Y, Tanaka T, Narumi T, Nomura W, Shibata J, Hatada M, Matsushita S, Tamamura H. Development of CD4 mimic small molecules targeted for dynamic supramolecular mechanism of HIV entry. 第10回熊本エイズセミナー. 熊本, 2009年9月28-29日.
85. 野村 渉, 芹澤雄樹, 大橋南美, 奥田善章, 鳴海哲夫, 吉田清嗣, 古田寿昭, 玉村啓和. 時間・空間特異的な細胞シグナル解析のためのケージド DAG ラクトンの合成. 第46回ペプチド討論会. 北九州, 2009年11月4-6日.



86. 田中智博, 野村 涉, 鳴海哲夫, 吉村和久, 松下修三, 村上努, 駒野 淳, 山本直樹, 玉村啓和. リバースからフォワードへケミカルゲノミクスを基盤とした抗 HIV 剤の創製. 第 46 回ペプチド討論会. 北九州, 2009 年 11 月 4-6 日.
87. 大矢亜紀, 中原 徹, 野村 涉, 大庭賢二, 田中智博, 橋本知恵, 鳴海哲夫, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. HIV 外被蛋白質 gp41 の 3 量体構造に特異的な抗体を誘導する人工抗原ペプチドの合成. 第 46 回ペプチド討論会. 北九州, 2009 年 11 月 4-6 日.
88. 大橋南美, 野村 涉, 鳴海哲夫, 奥田善章, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 吉田清嗣, Lewin NE, Blumberg PM, 玉村啓和. 蛍光標識を用いたオルソゴナルな PKC リガンド結合活性評価法の開発. 第 46 回ペプチド討論会. 北九州, 2009 年 11 月 4-6 日.
89. 中原 徹, 野村 涉, 大庭賢二, 橋本知恵, 大矢亜紀, 田中智博, 鳴海哲夫, 山本直樹, 玉村啓和. HIV 侵入の動的超分子機構を模倣した立体構造制御型人工抗原分子の創製. 第 35 回反応と合成の進歩シンポジウム. 金沢, 2009 年 11 月 16-17 日.
90. 田中智博, 野村 涉, 鳴海哲夫, 玉村啓和. 合成二価型リガンドを用いた CXCR4 二量体構造の解析研究. 第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム. 東京, 2009 年 11 月 25-27 日.
91. 奥田善章, 野村 涉, 鳴海哲夫, 大橋南美, 玉村啓和. PKC リガンドの蛍光を用いた洗浄不要型アッセイ法の開発. 第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム. 東京, 2009 年 11 月 25-27 日.
92. 橋本知恵, 野村 涉, 田中智博, 鳴海哲夫, 大庭賢二, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 第二受容体 CXCR4 を基にした合成抗原分子の開発. 第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム. 東京, 2009 年 11 月 25-27 日.
93. 中西 勇太, 中原 徹, 鈴木慎太郎, 田中智博, 大橋南美, 堤 浩, 鳴海哲夫, 野村 涉, 駒野 淳, 山本 直樹, 玉村啓和. ペプチドライブラリーを基にした HIV-1 インテグラーゼに対する阻害剤の創製. 第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム. 東京, 2009 年 11 月 25-27 日.
94. 大矢亜紀, 中原 徹, 野村 涉, 大庭賢二, 田中智博, 橋本知恵, 鳴海哲夫, 村上努, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-gp41 の三量体構造に特異的な中和抗体を誘導する人工抗原ペプチド. 第 28 回メディシナルケミストリーシンポジウム. 東京, 2009 年 11 月 25-27 日.
95. 青木 徹. Development of 5th generation lentiviral vector. 第 32 回日本分子生物学会年会. 横浜, 2009 年 12 月 10 日.
96. Masuda A, Nomura W, Okuda T, Narumi T, Tamamura T. Design of zinc finger recombinase (RecZFP) for efficient sequence-specific genome editing. 第 32 回日本分子生物学会年会. 横浜, 2009 年 12 月 10 日.
97. Tamamura H. Anti-HIV Inhibitors and AIDS Vaccines. International Summer Program 2010. Tokyo, Japan, Sep 6-8, 2010.
98. Tanaka T, Nomura W, Narumi T, Tamamura H. Elucidation of a Dimerization State of a Chemokine Receptor CXCR4 via Chemical Biology Approach Utilizing Novel Bivalent Ligands with Rigid Polyproline Linkers. The 13th Akabori Conference Leipzig 2010: Japanese-German Symposium on Peptide Science. Leipzig, Germany, Sep 11-15, 2010.
99. Tamamura H. Peptidic HIV Integrase Inhibitors Derived from HIV Gene Products. 11th

- KUMAMOTO AIDS Seminer · GCOE Joint International Symposium. Kumamoto, Japan, Oct 6-8, 2010.
100. Hashimoto C, Maddali K, Tanaka T, Narumi T, Nomura W, Yamamoto N, Pommier Y, Komano JA, Tamamura H. Peptidic HIV Integrase Inhibitors Derived from HIV Gene Products. 11th KUMAMOTO AIDS Seminer · GCOE Joint International Symposium. Kumamoto, Japan, Oct 6-8, 2010.
  101. Matsushita S, Mouri S, Harada S, Yamada Y, Tamamura H, Yoshimura K. Strategy to Overcome Neutralization Resistance of HIV-1 Primary Isolates. 11th KUMAMOTO AIDS Seminer · GCOE Joint International Symposium. Kumamoto, Japan, Oct 6-8, 2010.
  102. Ozaki T, Tanaka T, Narumi T, Arai H, Ohashi N, Hashimoto C, Nomura W, Murakami T, Yamamoto N, Tamamura H. Structure-Activity Relationships of CXCR4 Antagonists Having the Dipicolylamine/Azamacrocyclic-Metal Complex Structures. 11th KUMAMOTO AIDS Seminer · GCOE Joint International Symposium. Kumamoto, Japan, Oct 6-8, 2010.
  103. Arai H, Narumi T, Ochiai C, Yoshimura K, Harada S, Tanaka T, Nomura W, Ozaki T, Ohashi N, Matsushita S, Tamamura H. Development of Small CD4 Mimic Molecules that Induce Conformational Changes in gp120. 11th KUMAMOTO AIDS Seminer · GCOE Joint International Symposium. Kumamoto, Japan, Oct 6-8, 2010.
  104. Masuda A, Nomura W, Urabe A, Tamamura H. Effects of DNA binding and linker length on recombination of artificial zinc-finger recombinase. The 37th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2010. Yokohama, Japan, Nov10-12,2010.
  105. Nomura W, Ohashi N, Mori A, Narumi T, Tanaka T, Masuda A, Tsutsumi H, Tamamura H. Novel Tag-probe Pairs for Fluorescent Imaging of Proteins in Living Cells. 5th International Peptide Symposium. Kyoto, Japan, Dec 4-9, 2010.
  106. Nomura W, Tanaka T, Masuda A, Narumi T, Tamamura H. Development of a Bivalent Ligand for a Chemokine Receptor CXCR4 by Utilizing Polyproline Helix as a Linker. 5th International Peptide Symposium. Kyoto, Japan, Dec 4-9, 2010.
  107. Narumi T, Bode JW.  $\alpha,\alpha$ -Dichloroisoxazolidinones for The Synthesis and Chemoselective Peptide Ligation of  $\alpha$ -Peptide  $\alpha$ -Ketoacids. 5th International Peptide Symposium. Kyoto, Japan, Dec 4-9, 2010.
  108. Hashimoto C, Narumi T, Nomura W, Yamamoto N, Tamamura H. Synthesis and Evaluation of CXCR4-derived Peptides Targeting the Development of AIDS Vaccines. 5th International Peptide Symposium. Kyoto, Japan, Dec 4-9, 2010.
  109. Nomura W, Masuda A, Okuda T, Barbas III CF, Tamamura H.. Kinetic Analysis of Split DNA Methylase in DNA Recognition and Methylation. 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2010). Hawaii, USA, Dec 15-20, 2010.
  110. 玉村啓和. ペプチド化学を基盤としたケミカル&センシングバイオロジー. 第5回ケミカルバイオロジー・第2回センシングバイオロジーシンポジウム. 東京, 2010年2月23日.

111. 玉村啓和. ケミカルバイオロジーを基盤とした抗 HIV 剤の創製. 創薬懇話会 2010 in 蔵王. 次世代を担う若手のためのメディシナルケミストリーフォーラム. 宮城, 2010 年 11 月 12-13 日.
112. 野村 渉. Zinc Finger 融合酵素を用いた革新的ウイルスゲノム改変技術の開発. 第 58 回日本ウイルス学会学術集会. 徳島, 2010 年 11 月 7-9 日.
113. 野村 渉, 中原 徹, 大矢亜紀, 大庭賢二, 田中智博, 橋本知恵, 鳴海哲夫, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. 合成抗原ペプチドによる HIV-1 gp41 の三量体構造を認識する抗体の誘導. 日本薬学会第 130 年会. 岡山, 2010 年 3 月 28-30 日.
114. 鳴海哲夫, 落合千裕, 山田裕子, 吉村和久, 原田恵嘉, 大橋南美, 野村 渉, 松下修三, 玉村啓和. HIV-1 外被タンパク質 gp120 の構造変化誘起を指向した低分子 CD4 ミミックの構造活性相関研究. 日本薬学会第 130 年会. 岡山, 2010 年 3 月 28-30 日.
115. 鳴海哲夫, 清家俊輔, 野村 渉, 玉村啓和. 新規アミド結合等価体クロロアルケン型ジペプチドイソスターの合成研究. 日本薬学会第 130 年会. 岡山, 2010 年 3 月 28-30 日.
116. 大橋南美, 野村 渉, 鳴海哲夫, 奥田善章, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 吉田清嗣, NE. Lewin, PM. Blumberg, 玉村啓和. 蛍光を用いた P KC リガンド結合評価法の開発. 日本薬学会第 130 年会. 岡山, 2010 年 3 月 28-30 日.
117. 田中智博, 野村 渉, 鳴海哲夫, 玉村啓和. 二価型 CXCR4 リガンドの創製と二量体構造解析への応用. 日本薬学会第 130 年会. 岡山, 2010 年 3 月 28-30 日.
118. 橋本知恵, 野村 渉, 田中智博, 中原 徹, 鳴海哲夫, 大庭賢二, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. エイズワクチンを指向した宿主受容体 CXCR4 由来抗原分子の創製. 日本薬学会第 130 年会. 岡山, 2010 年 3 月 28-30 日.
119. 増田朱美, 野村 渉, 大庭賢二, 奥田 毅, Barbas, III Carlos F., 山本直樹, 玉村啓和. 標的配列特異的 DNA 組換え酵素の構築を目指した亜鉛フィンガータンパク質の応用. 日本薬学会第 130 年会. 岡山, 2010 年 3 月 28-30 日.
120. 野村 渉, 大橋南美, 蓑 友明, 森 あつみ, 鳴海哲夫, 増田朱美, 堤 浩, 玉村啓和. 新規蛍光イメージングツールの創出: クロスリンク型 ZIP タグ-プローブペアの開発. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 5 回年会. 横浜, 2010 年 5 月 18-19 日.
121. 鳴海哲夫, 清家俊輔, 野村 渉, 玉村啓和. 新規アミド結合等価体の創製研究. クロロアルケン型ジペプチドイソスターの合成研究. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 5 回年会. 横浜, 2010 年 5 月 18-19 日.
122. 田中智博, 橋本知恵, 小森谷真央, 野村 渉, 鳴海哲夫, 吉村和久, 松下修三, 村上 努, 駒野 淳, 大庭賢二, 山本直樹, 玉村啓和. リバースからフォワードへケミカルゲノミクスを活用した抗 HIV 剤の創製. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 5 回年会. 横浜, 2010 年 5 月 18-19 日.
123. 田中智博, 野村 渉, 鳴海哲夫, 増田朱美, 玉村啓和. 堅固なリンカーを有する二価結合型 CXCR4 リガンドの開発と応用. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 5 回年会. 横浜, 2010 年 5 月 18-19 日.
124. 橋本知恵, 野村 渉, 中原 徹, 田中智博, 堤 浩, 長谷山正樹, 大庭賢二, 鳴海哲夫, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. HIV 侵入の動的超分子機構を基にしたエイズワクチン開発. 日本ケミカルバイオロジー学会 第

- 5 回年会. 横浜, 2010 年 5 月 18-19 日.
125. 増田朱美, 野村 渉, 奥田 毅, 玉村啓和. 亜鉛フィンガー融合型 DNA 組換え酵素のデザイン. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 5 回年会. 横浜, 2010 年 5 月 18-19 日.
126. 小森谷真央, 村上 努, 鈴木慎太郎, 鳴海哲夫, 野村 渉, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 マトリックスタンパク質を基にした新規抗 HIV ペプチドの創出. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 5 回年会. 横浜, 2010 年 5 月 18-19 日.
127. 野村 渉, 田中智博, 増田朱美, 鳴海哲夫, 玉村啓和. 2 価結合型リガンドの新規デザインによる CXCR4 の細胞表面における機能解析. 第 4 回バイオ関連化学シンポジウム. 大阪, 2010 年 9 月 24-26 日.
128. 野村 渉, 相馬 晃, 中原 徹, 大庭賢二, 田中智博, 橋本知恵, 鳴海哲夫, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-gp41 の三量体構造に特異的な中和抗体を誘導する人工抗原ペプチド. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2010 年 10 月 2 日.
129. 鳴海哲夫, 清家俊輔, 野村 渉, 玉村啓和. 新規アミド結合等価体クロロアルケン型ジペプチドイソスターの合成研究. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2010 年 10 月 2 日.
130. 鳴海哲夫, 新井啓之, 落合千裕, 尾崎太郎, 吉村和久, 原田恵嘉, 野村 渉, 松下修三, 玉村啓和. HIV 外被タンパク質 gp120 の構造変化誘起を指向した低分子 CD4 ミミックの創製. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2010 年 10 月 2 日.
131. 橋本知恵, 鳴海哲夫, 野村 渉, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 侵入機構を基にした宿主細胞タンパク質由来抗原分子の創製. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2010 年 10 月 2 日.
132. 増田朱美, 野村 渉, 卜部亜里沙, 玉村啓和. 亜鉛フィンガー融合酵素による配列特異的 DNA 組換え反応効率の検討. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2010 年 10 月 2 日.
133. 小森谷真央, 村上 努, 田中智博, 鈴木慎太郎, 鳴海哲夫, 野村 渉, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 マトリックスタンパク質を基にした新規抗 HIV ペプチドの創出. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2010 年 10 月 2 日.
134. 尾崎太郎, 田中智博, 鳴海哲夫, 新井啓之, 大橋南美, 橋本知恵, 野村 渉, 村上 努, 玉村啓和. 二核亜鉛錯体型 CXCR4 アンタゴニストの構造活性相関研究. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2010 年 10 月 2 日.
135. 森 あつみ, 野村 渉, 鳴海哲夫, 大橋南美, 玉村啓和. 細胞内タンパク質の挙動解明を志向したタグ・プローブシステムの開発. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2010 年 10 月 2 日.
136. 野村 渉, 中原 徹, 橋本知恵, 大庭賢二, 相馬 晃, 田中智博, 鳴海哲夫, 山本直樹, 玉村啓和. HIV 侵入の動的超分子機構を模倣した立体構造特異的人工抗原分子の創製. 第 36 回反応と合成の進歩シンポジウム. 愛知, 2010 年 11 月 1-2 日.
137. 鳴海哲夫, 清家俊輔, 尾崎太郎, 新井啓之, 野村 渉, 玉村啓和. 有機銅試薬によるクロロアルケン型ジペプチドイソスターの合成研究. 第 36 回反応と合成の進歩シンポジウム. 愛知, 2010 年 11 月 1-2 日.
138. 小森谷真央, 村上 努, 鳴海哲夫, 野村 渉, 山本直樹, 玉村啓和. マトリックスタンパク質を基にした新規抗 HIV ペプチド. 第 29 回メディシナルケミストリーシンポジウム.

- 京都, 2010年11月17-19日.
139. 鳴海哲夫, 新井啓之, 落合千裕, 吉村和久, 原田恵嘉, 野村 渉, 松下修三, 玉村啓和. HIV-1 外被タンパク質 gp120 の構造変化誘起を指向した低分子CD4 ミミックの構造活性相関研究. 第29回メディシナルケミストリーシンポジウム. 京都, 2010年11月17-19日.
140. 村上 努, 小森谷真央, 鈴木慎太郎, 橋本知恵, 鳴海哲夫, 野村 渉, 山本直樹, 玉村啓和. 細胞膜透過性 MA 部分ペプチドライブラリーを用いた新規抗 HIV-1 ペプチドの探索と創出. 第58回日本ウイルス学会学術集会. 徳島, 2010年11月7-9日.
141. 近藤麻美, 野村 渉, 玉村啓和, 鈴木陽一, 梁 明秀. 亜鉛フィンガー—LEDGF 融合タンパクを用いた LV ベクターの配列特異的挿入法の開発の試み. 第58回日本ウイルス学会学術集会. 徳島, 2010年11月7-9日.
142. 橋本知恵, 田中智博, 浦野恵美子, 尾崎太郎, 新井啓之, 鳴海哲夫, 野村 渉, Maddali K, Pommier Y, 山本直樹, 駒野 淳, 玉村啓和. HIV-1 遺伝子産物由来のインテグラーゼ阻害剤の創出. 第24回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2010年11月24-26日.
143. 鳴海哲夫, 新井啓之, 落合千裕, 尾崎太郎, 吉村和久, 原田恵嘉, 野村 渉, 松下修三, 玉村 啓和. HIV 外被タンパク質 gp120 の構造変化誘起を指向した低分子CD4 ミミックの創製. 第24回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2010年11月24-26日.
144. 橋本知恵, 鳴海哲夫, 野村 渉, 中原 徹, 田中智博, 大庭賢二, 相馬 晃, 長谷山正樹, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 侵入過程の動的超分子機構を基にした新規エイズワクチンの創製. 第24回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2010年11月24-26日.
145. 小森谷真央, 村上 努, 鈴木慎太郎, 鳴海哲夫, 野村 渉, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 マトリックスタンパク質を基にした新規抗 HIV ペプチドの創出. 第24回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2010年11月24-26日.
146. 尾崎太郎, 田中智博, 宮内浩典, 橋本知恵, 鳴海哲夫, 野村 渉, 山本直樹, 駒野 淳, 玉村啓和. gp120 の CD4 結合サイトを模倣した新規抗原分子の創製. 第24回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2010年11月24-26日.
147. Yamamoto J, Tanaka T, Denda M, Shigenaga A, Nomura W, Tamamura H, Otaka A. Design and Synthesis of Traceable Linker for Efficient Enrichment and Specific Labeling of Target Proteins. 22nd American Peptide Symposium. Southern California, USA, June 25-30, 2011.
148. Masuda A, Nomura, W, Ohba K, Yamamoto N, Tamamura H. Studies for Optimum Design of Artificial Zinc Finger Recombinases by Evaluation of Effects of DNA Binding Affinity and Linker Components on Recombination Efficiency. 22nd American Peptide Symposium. Southern California, USA, June 25 -30, 2011.
149. Nomura W, Nakahara T, Hashimoto C, Ohba K, Narumi T, Yamamoto N, Tamamura T. Synthesis of HIV Gp41 Trimer Mimics Inducing Neutralizing Antibodies Based on Remodeling of Dynamic Structures of HIV-1 Envelope Proteins. 22nd American Peptide Symposium. Southern California, USA, June 25- 30, 2011.
150. Nomura W, Tanaka T, Masuda A, Narumi

- T, Tamamura H. Development of Bivalent Ligands for CXCR4 with Rigid Linkers and Application to Detection of Cancer Cells. 22nd American Peptide Symposium. Southern California, USA, June 25-30, 2011.
151. Narumi T, Komoriya M, Hashimoto C, Wu H, Nomura W, Suzuki S, Yamamoto N, Chiba J, Tanaka T, Murakami T, Tamamura H. Identification of Anti-HIV Peptides Derived from Matrix Proteins. ACS Meeting Fall 201, Denver, Colorado, USA, Aug 28 -Sep 1, 2011.
152. Hashimoto C, Narumi T, Nomura W, Yamamoto N, Tamamura H. HIV-1 Co-Receptor CXCR4-Derived Peptides Targeting AIDS Vaccines. The 9th Australian Peptide Conference. Hamilton Island, Queensland, Australia, Oct 16-20, 2011.
153. Nomura W, Ohashi N, Narumi T, Lewin NE, Blumberg PM, Tamamura H. Synthesis of C1b Domains of Protein Kinase C Having Solvatochromism and their Application to Bio-sensing. The 9th Australian Peptide Conference. Hamilton Island, Queensland, Australia, Oct 16-20, 2011.
154. Urabe A, Nomura W, Masuda A, Tamamura H. Sequence-Specific Recombination Enabled by a Pair of Zinc Finger Recombinases. The 9th Australian Peptide Conference. Hamilton Island, Queensland, Australia, Oct 16-20, 2011.
155. Narumi T, Arai H, Ochiai C, Yoshimura K, Harada S, Nomura W, Matsushita S, Tamamura H. SAR Study of Small Molecular CD4 Mimics Targeting the Dynamic Supramolecular Mechanism of HIV Entry and Their Hybrid Molecules with a CXCR4 Antagonist. The 12th Kumamoto AIDS Seminar·GCOE Joint International Symposium. Kumamoto, Japan, Oct 19-21, 2011.
156. Arai H, Narumi T, Yoshimura K, Harada S, Aikawa H, Nomura W, Matsushita S, Tamamura H. Design, Synthesis and Biological Evaluation of CD4 Mimics Targeting the Interaction with Asp368 and Val430 in Gp120. The 12th Kumamoto AIDS Seminar·GCOE Joint International Symposium. Kumamoto, Japan, Oct 19-21, 2011.
157. Matsushita S, Ramirez K, Maruta Y, Harada S, Yamada Y, Tamamura H. Kuwata T, Yoshimura K. Cross-Subtype Reactivity and Neutralization Activity of a Panel of Human Monoclonal Antibodies Obtained from a Single Donor. The 12th Kumamoto AIDS Seminar·GCOE Joint International Symposium. Kumamoto, Japan, Oct 19-21, 2011.
158. Narumi T, Seike S, Tamamura H. Synthetic Studies on (*Z*) and (*E*)-Chloroalkene Skeletons As Amide Bond Equivalents. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
159. Narumi T, Arai H, Yoshimura K, Harada S, Nomura W, Matsushita S, Tamamura H. SAR Studies of Small Molecular CD4 Mimics Targeting the HIV Entry Mechanism. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
160. Narumi T, Shishido M, Tamamura H. *N*-(Benzoyloxy)sulfonamides-Mediated Aziridination of  $\alpha$ ,  $\beta$ -Unsaturated Enones. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
161. Masuda A, Nomura W, Ohba K, Yamamoto

- o N, Tamamura H. Development of Artificial Recombinases for Genome Editing. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
162. Nomura W, Hashimoto C, Ohba K, Narumi T, Yamamoto N, Tamamura H. Synthetic Antigens for Induction of Structure-Specific Antibodies against Trimer-Form of gp41. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
163. Hashimoto C, Narumi T, Nomura W, Yamamoto N, Tamamura H. CXCR4-Derived Peptides Targeting AIDS Vaccines. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
164. Narumi T, Nomura W, Tamamura H. Several HIV Inhibitors Targeting Entry, Fusion, Integrase and Matrix. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
165. Narumi T, Kambe C, Nomura W, Tamamura H. Development of Photochemically Removable Protecting Groups in Hydrophilic Environments: Synthesis and Photochemical Property of 8-Azacoumarins. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
166. Yamamoto J, Tanaka T, Denda M, Ebisuno K, Shigenaga A, Nomura W, Tamamura H. Otaka A. Application of Stimulus-responsive Amino Acid to Traceable Linker for Efficient Enrichment and Specific Labeling of Target Proteins. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium. Tokyo, Japan, Nov 29-Dec 2, 2011.
167. 玉村啓和. ケミカルバイオロジーを基盤とした抗 HIV 剤の創製. シンポジウム「新しい抗感染症剤研究の最前線 - 発見、ケミカルバイオロジーそして創薬へ -」. 日本薬学会第 131 年会 (中止). 静岡, 2011 年 3 月 28-31 日.
168. 鳴海哲夫, 新井啓之, 吉村和久, 原田恵嘉, 野村 渉, 松下修三, 玉村啓和. HIV-1 外被タンパク質 gp120 の構造変化誘起を指向した低分子 CD4 ミミックの創製研究. 日本薬学会第 131 年会 (中止). 静岡, 2011 年 3 月 28-31 日.
169. 鳴海哲夫, 玉村啓和. イミダゾリウム塩の構造最適化を指向した構造活性相関研究. 日本薬学会第 131 年会 (中止). 静岡, 2011 年 3 月 28-31 日.
170. 森 あつみ, 野村 渉, 鳴海哲夫, 大橋南美, 増田朱美, 玉村啓和. 新規タグ・プローブシステムの細胞内タンパク質イメージングへの応用. 日本薬学会第 131 年会 (中止). 静岡, 2011 年 3 月 28-31 日.
171. 野村 渉, 卜部亜里沙, 近藤麻美, 増田朱美, 鳴海哲夫, 梁 明秀, 玉村啓和. ジンクフィンガーヌクレアーゼによる EB ウイルス複製阻害効果の検討. 日本薬学会第 131 年会 (中止). 静岡, 2011 年 3 月 28-31 日.
172. 鳴海哲夫, 落合千裕, 吉村和久, 原田恵嘉, 田中智博, 野村 渉, 新井啓之, 尾崎太郎, 大橋南美, 松下修三, 玉村啓和. 新規 HIV 侵入阻害剤の創製研究: 低分子型 CD4 ミミック-CXCR4 アンタゴニストのハイブリッド分子の設計と合成. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
173. 鳴海哲夫, 新井啓之, 吉村和久, 原田恵嘉, 野村 渉, 松下修三, 玉村啓和. HIV 外被タンパク質 gp120 の構造変化を誘起する低分

- 子 CD4 ミミックの構造活性相関研究. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
174. 野村 渉, 玉村啓和. 配列特異的 DNA 切断の化合物による制御法の開発. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
175. 橋本知恵, 野村 渉, 大矢亜紀, 宮内浩典, 鳴海哲夫, 駒野 淳, 山本直樹, 玉村啓和. HIV 外被タンパク質 gp41-C34 3 量体の合成とその抗 HIV 作用. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
176. 鳴海哲夫, 神戸千秋, 野村 渉, 玉村啓和. 水性環境下で効率的に反応する光分解性保護基の開発研究: 8-アザクマリン化合物の合成と光化学的特性. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
177. 増田朱美, 野村 渉, 卜部亜里沙, 玉村啓和. 高い反応効率をもつ亜鉛フィンガー融合型 DNA 組換え酵素の構築. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23 - 25 日.
178. 森 あつみ, 野村 渉, 大橋南美, 鳴海哲夫, 堤 浩, 玉村啓和. 細胞内タンパク質可視化を目的としたタグ・プローブシステムの創製. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
179. 大橋南美, 野村 渉, 鳴海哲夫, Nancy E. Lewin, 糸谷恭子, Peter M. Blumberg, 玉村啓和. 環境応答性蛍光基を導入した protein kinase C $\delta$  C1b ドメインによるリガンド結合活性評価. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
180. 尾崎太郎, 田中智博, 鳴海哲夫, 相馬 晃, 橋本知恵, 野村 渉, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. 二核亜鉛錯体型 CXCR4 アンタゴニストの構造活性相関研究. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
181. 鳴海哲夫, 清家俊輔, 玉村啓和. シスアミド等価体としての E 型クロロアルケン骨格の合成研究. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
182. 鳴海哲夫, 宍戸美華, 玉村啓和. N-(ベンゾイルオキシ)スルホンアミドを用いる  $\alpha,\beta$ -不飽和エノンのアジリジン化反応. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
183. 野村 渉, 田中智博, 相馬 晃, 鳴海哲夫, 増田朱美, 玉村啓和. 細胞表面における CXCR4 二量体構造解析のための堅固なリンカーを有する二価型リガンドの開発. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
184. 大橋南美, 野村 渉, 鳴海哲夫, 奥田善章, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, Nancy E. Lewin, 糸谷恭子, Peter M. Blumberg, 玉村啓和. 環境応答性蛍光基を活用した PKC リガンドの orthogonal screening methods. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
185. 野村 渉, 近藤麻美, 卜部亜里沙, 増田朱美, 梁 明秀, 玉村啓和. 亜鉛フィンガーヌクレアーゼを用いた EB ウイルス弱毒化に関する研究. 日本ケミカルバイオロジー学会 第 6 回年会. 東京, 2011 年 5 月 23-25 日.
186. 鳴海哲夫, 清家俊輔, 玉村啓和, Jeffrey W. Bode. 新規アミノ酸モノマーの設計と合成: 縮合剤を用いない  $\alpha$ -ペプチド合成への展開. 第 9 回次世代を担う有機化学シンポジウム. 東京, 2011 年 5 月 27-28 日.
187. 大附寛幸, 三浦智行, 小林剛, 吉村和久, 玉



- 村啓和, 松下修三, 五十嵐樹彦. HIV-1 エンベロープ蛋白質を標的とした治療を評価するためのサル/ヒト免疫不全ウイルスの作製と *in vitro* における中和感受性の評価. 第25回近畿エイズ研究会学術集会. 京都, 2011年6月18日
188. 野村 渉, 増田朱美, 卜部亜里沙, 玉村啓和. 細胞内における配列特異的 DNA 組換え反応の定量的測定法開発. 第11回日本蛋白質科学会年会. 大阪, 2011年6月7-9日.
189. 鳴海哲夫, 新井啓之, 野村 渉, 玉村啓和, 吉村和久, 原田恵嘉, 松下修三. HIV 外被タンパク質 gp120 の構造変化を誘起する低分子 CD4 ミミックの構造活性相関研究. 創薬懇話会. 岡山, 2011年7月6-7日
190. 玉村啓和. HIV-1 遺伝子産物由来のインテグラーゼ阻害剤. 第16回日本病態プロテアーゼ学会学術集会. 大阪, 2011年8月26-27日.
191. 野村 渉, 田中智博, 増田朱美, 鳴海哲夫, 玉村啓和. 2 価結合型リガンドの新規デザインによる CXCR4 の細胞表面における機能解析. 第5回バイオ関連化学シンポジウム, 筑波, 2011年9月12-14日.
192. 増田朱美, 野村 渉, 大庭賢二, 卜部亜里沙, 山本直樹, 玉村啓和. ジンクフィンガー融合 DNA 組換え酵素の反応効率最適化. 第5回バイオ関連化学シンポジウム. 筑波, 2011年9月12-14日.
193. 関根綾太, 鈴木商信, 玉村啓和, 古田寿昭. 新規ケージドパクリタキセルの設計・合成と細胞骨格の光制御への応用. 2011年光化学討論会. 宮崎, 2011年9月6-8日.
194. 野村 渉, 田中智博, 青木 徹, 相馬 晃, 相川春夫, 鳴海哲夫, 玉村啓和. 2 価型 CXCR4 リガンドの開発と受容体結合機能の解析. 第48回ペプチド討論会. 札幌, 2011年9月27-29日.
195. 野村 渉, 堤 浩, 阿部清一朗, 森 あつみ, 鳴海哲夫, 相川春夫, 玉村啓和. ロイシンジッパー構造を基にした青色蛍光を発するタグプローブシステム. 第48回ペプチド討論会. 札幌, 2011年9月27-29日.
196. 野村 渉, 橋本知恵, 中原 徹, 大矢亜紀, 宮内浩典, 大庭賢二, 鳴海哲夫, 相川春夫, 駒野 淳, 山本直樹, 玉村啓和. HIV ワクチンを指向した gp41 の動的構造変化を模倣した抗原ペプチドの開発研究. 第48回ペプチド討論会. 札幌, 2011年9月27-29日.
197. 新井啓之, 鳴海哲夫, 野村 渉, 原田恵嘉, 吉村和久, 松下修三, 玉村啓和. HIV 外被タンパク質 gp120 の構造変化を誘起する低分子 CD4 ミミックの構造活性相関研究. 第55回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2011年10月8日.
198. 卜部亜里沙, 野村 渉, 増田朱美, 玉村啓和. 1 対で反応するジンクフィンガーリコンビナーゼの設計とその反応. 第55回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2011年10月8日.
199. 尾崎太郎, 浦野恵美子, 鳴海哲夫, 野村 渉, Kasthuraiah Maddali, Yves Pommier, 山本直樹, 駒野淳, 玉村啓和. HIV タンパク質 Vpr を基にしたインテグラーゼ阻害剤の構造活性相関研究. 第55回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2011年10月8日.
200. 宍戸美華, 鳴海哲夫, 相川春夫, 玉村啓和. N-(ベンゾイルオキシ)スルホンアミドによる  $\alpha$ - $\beta$ -不飽和エノンの アジリジン化反応. 第55回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2011年10月8日.
201. 清家俊輔, 鳴海哲夫, 相川春夫, 玉村啓和. クロロアルケン型ジペプチドイソスターの立体選択的合成法の開発. 第55回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2011年10月8日.

202. 相馬 晃, 野村 渉, 田中智博, 鳴海哲夫, 相川春夫, 玉村啓和. CXCR4 二量化状態解析のための 2 価結合型リガンドの合成. 第 55 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2011 年 10 月 8 日.
203. 森 あつみ, 野村 渉, 大橋 南美, 鳴海 哲夫, 玉村 啓和. 細胞内蛋白質のタグ-プローブシステムを利用した蛍光イメージングツールの創製. 第 55 回日本薬学会関東支部大会. 東京, 2011 年 10 月 8 日.
204. 鳴海哲夫, 野村 渉, 神戸千秋, 相川春夫, 古田寿昭, 玉村啓和. 光制御型 PKC リガンドの創製と新規光分解性保護基の開発研究. 第 37 回反応と合成の進歩シンポジウム. 徳島, 2011 年 11 月 7-8 日.
205. 相川春夫, 野村 渉, 鳴海哲夫, 田中智博, 玉村啓和. 蛍光ラベル化した二価結合型 CXCR4 リガンドの創製と応用. 第 37 回反応と合成の進歩シンポジウム. 徳島, 2011 年 11 月 7-8 日.
206. 鳴海哲夫, 新井啓之, 吉村和久, 原田恵嘉, 野村 渉, 松下修三, 玉村啓和. 低分子型 CD4 ミミック: HIV 外被タンパク質の構造変化を促す HIV 侵入阻害剤. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会. 東京, 2011 年 11 月 30 日-12 月 2 日.
207. 橋本知恵, 鳴海哲夫, 野村 渉, 村上 努, 山本直樹, 玉村啓和. HIV-1 第二受容体 CXCR4 の細胞外ドメインを基にしたエイズワクチンの開発研究. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会. 東京, 2011 年 11 月 30 日-12 月 2 日.
208. 鳴海哲夫, 新井啓之, 吉村和久, 原田恵嘉, 野村 渉, 松下修三, 玉村啓和. HIV 外被タンパク質 gp120 の構造変化誘起を指向した低分子 CD4 ミミックの構造活性相関研究. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会. 東京, 2011 年 11 月 30 日-12 月 2 日.
209. 尾崎太郎, 浦野恵美子, 鳴海哲夫, 野村 渉, Kasthuraiah Maddali, Yves Pommier, 山本直樹, 駒野 淳, Vpr 由来インテグラーゼ阻害剤の構造活性相関. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会. 東京, 2011 年 11 月 30 日-12 月 2 日.
210. 玉村 啓和. ペプチド化学を基盤としたケミカルバイオロジー. 第 14 回ペプチドフォーラム. 鹿児島, 2011 年 12 月 16 日.
211. 三浦智行: 霊長類エイズモデル研究の新展開、第 19 回日本数理生物学会年会、2009 年 9 月 9-11 日、東京
212. 岩見真吾、三浦智行、竹内康博: AIDS ワクチン開発への理論的介入 -SHIV 感染実験と数理モデル-、第 19 回日本数理生物学会年会、2009 年 9 月 9-11 日、東京
213. 岩見真吾、三浦智行、竹内康博: 実験データによる SHIV 感染力推定理論の開発、第 19 回日本数理生物学会年会、2009 年 9 月 9-11 日、東京
214. 松田健太、稲葉一寿、伊吹謙太郎、深澤嘉伯、松山めぐみ、斉藤尚紀、堀池麻里子、姫野愛、速水正憲、五十嵐樹彦、三浦智行: 新規 CCR5 指向性 SHIV の作製とアカゲザルへの順化、第 148 回日本獣医学会学術集会、2008 年 9 月 25-27 日、鳥取.
215. 松田健太、稲葉一寿、深澤嘉伯、伊吹謙太郎、松山めぐみ、堀池麻里子、速水正憲、五十嵐樹彦、三浦智行: 抗 HIV ワクチン評価に有用な R5 指向性 SHIV の作製、第 57 回日本ウイルス学会学術集会、2009 年 10 月 25-27 日、東京.
216. 高原悠佑、武内寛明、石井洋、高橋尚史、三浦智行、五十嵐樹彦、俣野哲朗: ビルマ産アカゲザル SIV 感染により誘導される CT

- L エピトープの探索、第 57 回日本ウイルス学会学術集会、2009 年 10 月 25-27 日、東京
217. 間陽子、石井英樹、萩原恭二、鈴木辰徳、北原玄太、橋本祥江、野中瑞穂、松田剛、武田英里、薛光愛、山本典生、三浦智行、鈴木正昭：ヒト免疫不全ウイルス 1 型(HIV-1)Vpr の新規核移行機序を標的とする創薬開発、第 57 回日本ウイルス学会学術集会、2009 年 10 月 25-27 日、東京
218. 石井英樹、鈴木辰徳、松田剛、武田英里、三浦智行、間陽子、鈴木正昭：ヒト免疫不全にウイルス 1 型(HIV-1)アクセサリタンパク質 Vpr 検出用試薬の開発、第 57 回日本ウイルス学会学術集会、2009 年 10 月 25-27 日、東京
219. 岩見慎吾、佐々木顕、三浦智行：変異株の固定確立-確率過程によるモデリング-、第 23 回日本エイズ学会学術集会、2009 年 11 月 26-28 日、名古屋
220. Iwami, S., Miura, T., Takeuchi, Y.: Experimental and theoretical perspective of SHIV pathogenesis. The Second International Conference on Infectious Disease Dynamics, Athens, Greece, Dec.2-4, 2009.
221. 中村仁美、五十嵐樹彦、三浦智行：相同組換えによって作製した新規サル／ヒト免疫不全ウイルスの遺伝子解析、第 149 回日本獣医学会学術集会、2010 年 3 月 26-28 日、東京。
222. S. Iwami, Y. Takeuchi, T. Igarashi and T. Miura: Estimate of viral productivity and infectivity in vitro. KSIAM, April 24-25, 2010, Chungnam National University.
223. S. Iwami, Y. Takeuchi, T. Igarashi and T. Miura: Estimate of viral productivity and infectivity in vitro. CMPD3, May 31- June 4, 2010, Bordeaux, France.
224. 中村仁美、五十嵐樹彦、三浦智行：相同組換えによって作製した新規サル／ヒト免疫不全ウイルスの遺伝子解析、第 19 回サル疾病ワークショップ、2010 年 7 月 3 日、神奈川。
225. S. Iwami, M. Horiike, T. Miura and T. Igarashi: Contribution of Long-Lived Productively Infected Cells in SIV Infection. SIAM Conference on Life Science, July 12-15, 2010, Pittsburgh, Pennsylvania.
226. 岩見真吾、多田哲子、五十嵐樹彦、三浦智行：計算ウイルス学・免疫学の展開-ウイルス感染力推定法の開発-、日本応用数理学会、2010 年 9 月 8 日、東京。
227. 岩見真吾、堀池麻里子、三浦智行、稲葉寿、守田智、五十嵐樹彦：SIV 感染アカゲザルによる HAART 治療モデルのデータ解析とその理論、第 20 回日本数理生物学会、2010 年 9 月 14 日、札幌。
228. 岩見真吾、多田哲子、三浦智行：保存量を用いたウイルス感染力推定法の開発、日本数学会、2010 年 9 月 24 日、名古屋。
229. 岩見真吾、多田哲子、五十嵐樹彦、三浦智行：数理モデルによるウイルス感染力推定法の開発、第 58 回日本ウイルス学会学術集会、2010 年 11 月 7 日-9 日、徳島。
230. 大附寛幸、藤田泰久、小林剛、三浦智行、五十嵐樹彦：新規組換え技術による R5 指向性 clade C env を持つサル指向性 HIV-1 の創出、第 58 回日本ウイルス学会学術集会、2010 年 11 月 7 日-9 日、徳島。
231. 高原悠佑、松岡佐織、石井洋、堀池麻里子、三浦智行、五十嵐樹彦、俣野哲朗：サルエイズモデルにおける HAART 実施前後の CTL 反応の比較、第 58 回日本ウイルス学会学術集会、2010 年 11 月 7-9 日、徳島。
232. 仲宗根咲子、松山めぐみ、小林剛、三浦智

- 行、五十嵐樹彦：マクロファージにおける  
 霊長類レンチウイルス出芽様式の超微形態  
 学的解析、第 58 回日本ウイルス学会学術集  
 会、2010 年 11 月 7-9 日、徳島。
233. 堀池麻里子、松山めぐみ、安井美加、小林  
 剛、三浦智行、五十嵐樹彦：多剤併用療法  
 実施下のサルエイズモデルにおけるリンパ  
 節内でのウイルス新規感染の可能性、第 58  
 回日本ウイルス学会学術集会、2010 年 11  
 月 7-9 日、徳島。
234. 三浦智行：霊長類エイズモデル研究の新展  
 開、第 6 回霊長類医科学フォーラム、2010  
 年 11 月 18 日、つくば。
235. 岩見真吾、堀池麻里子、三浦智行、五十嵐  
 樹彦：SIV 感染アカゲザルによる HAART  
 治療モデルのデータ解析、第 24 回日本エイ  
 ズ学会学術集会、2010 年 11 月 24-26 日、東  
 京。
236. 中村仁美、大附寛幸、松田健太、小林剛、  
 五十嵐樹彦、三浦智行：相同組換えによっ  
 て作製した新規サル指向性ヒト免疫不全ウ  
 イルスの遺伝子解析、第 24 回日本エイズ学  
 会学術集会、2010 年 11 月 24-26 日、東京。
237. 藤田泰久、大附寛幸、小林剛、三浦智行、  
 五十嵐樹彦：新規組換え技術による CCR5  
 指向性 clade C HIV-1 株の env 領域を持つ  
 た SHIV の作製、第 24 回日本エイズ学会学  
 術集会、2010 年 11 月 24-26 日、東京。
238. Iwami, S., Beauchemin, C., Tada, T., Igaras  
 hi, T., Miura, T.: Quantification system of  
 viral dynamics in vitro -the dynamics of S  
 HIV on HSC-F. 8th ESMTB Conference, Ju  
 ne 28-July 2, 2011, Poland.
239. Iwami, S., Beauchemin, C., Tada, T., Igaras  
 hi, T., Miura, T.: Quantifying viral dynamic  
 s based on in vitro experiments and mathe  
 matical modeling. IUMS, September 11-16,  
 2011, Sapporo.
240. Takahara, Y., Nakamura, M., Higashi, R., H  
 oriike, M., Miura, T., Igarashi, T., Naruse,  
 T., Kimura, A., Matano, T., Matsuoka, S.:  
 Cytotoxic T lymphocyte responses during hi  
 ghly active antiretroviral therapy in simian i  
 mmunodeficiency virus-infected macaques. I  
 UMS, September 11-16, 2011, Sapporo.
241. 川岸崇裕、日向亮輔、加藤文博、好井健太  
 朗、高島郁夫、三浦智行、五十嵐樹彦、小  
 林剛：新規相同組換え技術による組換えダ  
 ニ媒介性脳炎ウイルスの構築、第 152 回日  
 本獣医学会学術集会、2011 年 9 月 19-21 日、  
 大阪。
242. 大附寛幸、三浦智行、小林剛、吉村和久、  
 玉村啓和、松下修三、五十嵐樹彦：中和抵  
 抗性のサル/ヒト免疫不全ウイルスの作製と  
 in vitro における立体構造変化誘導剤によ  
 る中和感受性増強効果の評価、第 25 回日本  
 エイズ学会学術集会、2011 年 11 月 30 日-1  
 2 月 2 日、東京。
243. 中村碧、高原悠佑、阪脇廣美、堀池麻里子、  
三浦智行、五十嵐樹彦、成瀬妙子、木村彰  
 方、俣野哲朗、松岡沙織：サルエイズモデ  
 ル感染初期における MHC クラス I ハプロタ  
 イプ別の CTL 反応優位パターンの解析、第  
 25 回日本エイズ学会学術集会、2011 年 11  
 月 30 日-12 月 2 日、東京。
244. 張陰峰、五十嵐樹彦、松尾和浩、堀端重男、  
 横溝香里、三浦智行、大橋貴、山本直樹、  
 志田壽利：高病原性 SIV に対する組換え B  
 CG と弱毒ワクシニア(m8 Δ)エイズワクチ  
 ンの防御効果、第 25 回日本エイズ学会学  
 術集会、2011 年 11 月 30 日-12 月 2 日、東京。
245. 岡林佐知、大野智恵子、保富康宏：実験用  
 カニクイザルに認められた急性巨核芽球形  
 白血病(AMKL)の一例 第 147 回日本獣医